

令和3年(2021年)12月17日発行
編集・発行 岩見沢市教育委員会
〒068-0024 岩見沢市4条西3丁目1番地
であえーる岩見沢4階

第 53 号

教育広報

いわみざわ市の教育

— 特集 —

岩見沢市教育振興表彰

- 共感する力を養うピア・サポート
- 学校給食を知ろう! ~地場産物~
- 第62回子ども文化祭・第69回市民の文化祭
- 学校運営を支える仕事 Vol.3「特別支援教育支援員」
- 教育長室から

岩見沢市教育委員会 Facebook

市内の教育に関する行事の情報、市教委ホームページの更新情報などを発信していますので、ぜひ「いいね!」してください。
<http://www.facebook.com/edu.iwamizawa>



【写真の紹介】10月30日に図書館フェスティバルが開催されました。今年のテーマは『図書館でアート』でした。テーマにちなんだ展示のほか、教育大生による落語会なども行われました。

岩見沢市教育振興表彰

11月5日（金）午前10時より、ホテルサンプラザにて岩見沢市教育振興表彰式が執り行われました。

岩見沢市教育振興表彰とは？

岩見沢市の教育振興のため、特に功績のあった市民または市民であった方に対して、その功労を表彰するものです。

個人が成したことだけではなく、教育に携わる団体に所属し、その団体の育成・発展に貢献されたことなども表彰の対象となります。

教育関係各種団体、学校等が候補者を推薦し、選考を経て決定します。

今年度は、以下の方々が受章されました。

教育振興表彰受章者

教 育 行 政 功 労



武蔵 輝彦 様

教育委員として、12年にわたり教育委員会議において問題提起や解決策の提案を積極的に行うなど、子どもが輝く岩見沢の教育づくりの推進に貢献されました。

体 育 功 労



佐藤 良弘 様

パークゴルフ協会の役員として、永年にわたり組織の発展に寄与され、公認指導員としてパークゴルフの振興と普及に尽力されました。

文 化 功 労



野崎 一子 様

岩見沢書道連盟の会長として、永年にわたり連盟の発展に寄与され、書道の普及発展や後継者の育成にあたるなど文化の振興に貢献されました。

受章者を代表し、佐藤 様が「栄えある賞をいただき大変感謝しております。今後も仲間とともに決意を新たに活動をしていきたいと思っております。」と謝辞を述べられました。



共感する力を養うピア・サポート

岩見沢市では、「傾聴・受容・共感」の信頼関係を基盤にした仲間づくりとして、全ての小中学校でピア・サポートを実践しています。

ピア・サポートとは？

ピア・サポートは、子ども同士で相互に支え合う活動です。

ピアは「仲間」、サポートは「支える」です。「支える」とは、直接問題を解決するのではなく、思いやりの気持ちで話を聞き、一緒に考え、違う意見も受け入れるということです。

子どもは、心配事や困ったことを相談する相手として一番に友達を選択することが多いという調査結果があります。その時にしっかりと受け止めてもらえる仲間がいることは、何にも代えがたい力になります。



人とふれあう楽しさを味わい、受け入れてもらう心地よさを感じる ピア・サポートの授業

子ども同士で相互に支え合う活動のためには、相手の気持ちを理解したり、コミュニケーションの取り方を学んだりすることが大切です。そのために、以下のような学習が行われます。

①自分のことを理解する授業

自己理解

②他者の気持ちを理解する授業

他者理解

③より良いコミュニケーションの方法を学ぶ授業

コミュニケーション訓練

④問題を一緒に考え、
解決へつなげることを学ぶ授業

問題解決スキル

⑤対立を解消するための方法を学ぶ授業

対立解消スキル

ピア・サポートのめざすもの

思いやりあふれるコミュニティの醸成
共生社会の担い手

自分を認めてくれる、受け入れてくれる安心感は、気持ちを素直に表現したり、誰かの力になろうとしたりする人間本来の気持ちを育てます。また、学級の仲間にも認められることは、学級での学習活動に心地よさを感じ、学力向上に大きな効果をもたらします。

【お問合せ先】

教育委員会指導室 電話 0126-35-5127

学校給食を知ろう！～地場産物～

～地場産物とは～

地域で収穫された生産物のことです。学校給食では、地元岩見沢市内で生産された農産物などをたくさん使用しています。これからも旬の地場産物を取り入れた美味しい給食を提供してまいります。

～地場産物の種類～

岩見沢市の学校給食では、主食は全て地元産の材料を使ったものを提供しています。

お米は「ななつぼし」、パンとラーメンの小麦は「キタノカオリ」、うどん・ソフトパスタの小麦は「きたほなみ」を使用しています。

旬の時期には、白菜、長ねぎ、大豆、じゃがいも、ヤーコン、人参などたくさんの岩見沢産の野菜を使用しています。

この他にもきじ肉や手造りみそなども使用しています。

～たんたんの日～

毎月、岩見沢産の食材を使った献立の日を岩見沢市学校給食のキャラクター「たんたん」にちなんで「たんたんの日」として、地元産食材に親しんだ給食を食べようという日にしています。

～学校給食展・献立コンクール～

教育委員会では、多くの保護者、市民の方々に学校給食に親しんでもらい、学校給食のより一層の充実、ご家庭での食への関心を高めていただくため、「学校給食展」を開催しております。

また、市内小中学校の児童・生徒を対象に、学校給食の献立を考えることを通して地元の農産物や食への興味・関心を高めることを目的とし、「学校給食献立コンクール」も実施しています。コンクールの応募作品には、地場産物を使った献立やユニークなネーミングなどアイデアいっぱいの献立がたくさん応募されています。



▲キャベツの洗浄の様子



▲人参の皮むきの様子



▲玉ねぎの調理の様子



▲ヤーコンを使った給食

【お問合せ先】学校給食課 電話 0126-22-4008

第62回子ども文化祭・第69回市民の文化祭

第 62 回 子ども文化祭

本年度で第62回を迎えた子ども文化祭は、市内全小中学校23校の児童生徒が各分野の成果を発表する場として、まなみーる岩見沢市民会館・文化センターを会場に毎年10月に開催されています。

各校の代表学年による合唱が行われる音楽発表会は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止になりましたが、英語暗唱大会・展示発表会は感染防止対策を徹底した中で開催されました。

10月1日の英語暗唱大会では25名の生徒が暗唱発表を行い、日頃の学習の成果を披露しました。また、10月16日・17日の展示発表会では、およそ1,200点もの作品が展示され、延べ1,500人を超える方々にご来場いただきました。

今後も、子ども文化祭を通じて児童・生徒の皆さんの活躍の場がさらに広がっていくことを期待しています。



▲英語暗唱大会の様子1



▲英語暗唱大会の様子2

第 69 回 市民の文化祭

市民の文化祭は「文化の輪を広げよう」をテーマに、舞台発表、展示発表、文芸発表、お茶席、ロビーコンサートや体験型の特別アトラクションを通して、市民の皆さんに芸術文化に広く触れてもらい、地域文化の振興につなげていくことを目的として毎年開催されています。

今年は10月23日・24日にまなみーる岩見沢市民会館・文化センターで開催されました。

今回は、展示発表のみの実施となりましたが、およそ350点の作品が展示され、多くの方が作品を鑑賞する姿が見られました。

「色々な作品を見ることができて嬉しい」「開催されて良かった」といった感想もいただき、新型コロナウイルスに負けず、文化の力で皆さんを笑顔にすることができました。



▲展示発表の様子1



▲展示発表の様子2

【お問合せ先】

生涯学習・文化・スポーツ振興課文化・スポーツ振興係
電話 0126-35-5129

学校運営を 支える仕事

Vol.3「特別支援教育支援員」



市内小中学校では、子どもたちが安心安全に学校生活を過ごせるよう、「事務補」、「用務員」、「学習指導員」、「スクールサポートスタッフ」、「特別支援教育支援員」が活躍しています。学校運営を支える5つの業務について、順次紹介していきます。

第3回は「特別支援教育支援員」を紹介します！

特別支援教育支援員

配慮が必要な児童生徒への学習支援を行うため、市内の小学校10校中学校2校へ25人を配置しています。特別支援学級の児童生徒の日常の学校生活の支援や通常学級の児童生徒の学習活動上の支援を行っています。



ある特別支援教育支援員の1日



朝

玄関や教室で児童生徒を迎える

授業開始

特別支援学級で学習支援、児童生徒の移動を支援

午後

通常学級で配慮が必要な児童生徒の学習支援

放課後

玄関まで児童生徒の支援、消毒作業、翌日の打合せ



【お問合せ先】教育委員会指導室 電話 0126-35-5127



子どものみらいわプロジェクト 「不登校のその先へ」

教育長室から

教育長 三角 光二

全国的に不登校が増えています。その理由や原因は一人ひとり様々です。残念なのは、不登校を一時的なものと捉えられず、将来に希望を見い出せないまま部屋に閉じこもってしまうことです。さらに、そのことが心の負担となり、体調を崩してしまうお子さんもいます。

全国不登校新聞社編の『学校に行きたくない君へ』（ポプラ社）には、「不登校したからといって、ダメだとか怠けているとか弱いとかいうことではなく、みんな自分の人生をよくしたいと一生懸命に生きています。」という当事者の声が寄せられています。

私は、不登校であっても、みんな元気であってほしいと願っています。不登校のいまは、自分のなかにエネルギーを蓄えるときで、いつかそのエネルギーを力に、なりたい自分になってほしいと願います。

そこで、「元気な不登校」を合い言葉に、『みらいわプロジェクト』が立ち上がりました。公認心理士

や看護師の資格のある経験豊富な市内の養護教諭が中心となり、不登校の子を持つ保護者の皆さんとの茶話会の開催を試みました。

その呼びかけには、「保護者のみなさま」と題して次の文章が載っています。

「お子様の学校に行きづらい、または不登校に関するお悩みは、お一人で抱え込まないでください。この茶話会は、保護者の方々と、子どものこと、将来のこと、学校のこと、いろいろな想いを語り合い、保護者のみなさまが元気になって周りの大人たちみんなで、お子様の成長を支えることを目的に開催しています。さあ、元気な不登校をめざしましょう。お気軽にご参加ください。」

子どもが元気になるためには、保護者に元気になってもらい、少しでも心のおもりを軽くしようという取り組みです。参加された方々からは、「話を聞いてもらってよかった」「話が聞けてよかった」という声をいただいています。今後も皆さんが話したいこと、聞きたいことを大切にしながら開催する予定です。11月は、進路のことを話題にしました。

【茶話会のお問合せ先】

教育支援センター 電話 0126-35-5161